

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 1月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4270102629
法人名	有限会社 ヘルパーステーションめくもりの家
事業所名	グループホーム めくもりの家
所在地	〒852-8127 長崎県長崎市大手二丁目1番63号 (電話) 095 - 843-0048

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年1月23日	評価確定日	平成21年2月23日

【情報提供票より】(H20年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ 平成	14年	4月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	7 人	常勤	5人, 非常勤	2人, 常勤換算 6.3 人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,000 円	その他の経費(月額)	実費、水光熱費300円/日
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	73 歳	最高	103 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	井上病院・三原台病院・立川歯科
---------	-----------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市北部中心地に近く、公共交通機関が利用できるメインの通りから少し入ったところではあるが、ホームの前に「乗り合いタクシー」が停車する利便性のよい立地である。古くからの少し立て込んだ住宅地であり、その間を縫うように通る細い道路沿いに商店が立ち並んでいる。親しみやすい雰囲気のある小さな街の中に溶け込むようにある当ホームは、築年数を経た既存の住宅を改造した建物である。設備として手狭で不自由な点もあるが、立地している地域には恵まれていて住民との日常的な交流がある。ホーム開設より経営者が3回変わっており、現在の経営者による体制は平成20年5月よりスタートした。開設時より変わらない入居者、職員もいるが、様々な不安も乗り越えて現在は新たな取り組みに前向きなスタッフの姿勢に期待を持つことができる。温かな地域住民の協力もあり、入居者、職員が肩を寄せ合う「めくもり」のある暮らしが感じられるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価が平成17年であり、当時と経営者も変わって引き継ぎも十分ではない為、今回は初回の評価とみなされる状況である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	月1回の会議で評価について説明をおこない、自己評価は職員全員に振り分けて取り組んだ。不明な点はホーム長に尋ねながら個々に記述してまとめた。その結果今まで気づかなかった各職員の視点や取り組みに気づくことができ、外部評価と共に今後の支援に活かしサービスの質の向上を図りたいとしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成19年4月を最後に開催されていなかった。平成20年5月より当法人の経営となり引き継ぎや新規体制を整えることで精一杯であったが、第1回会議を4月開催として準備を進めている。参加メンバーは家族代表(交代で)、自治会長、民生委員、行政代表、そして近隣住民に参加協力を依頼することとしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に近況報告をした折に、家族からのお尋ね、要望、意見をうかがうように配慮している。うかがったことは個人記録、申し送りノートに記録している。まずは経営者が変わったことで家族の不安がないように家族宛に挨拶文を郵送しており、ホームに来訪された際には対話の時間をゆっくり持つことができるよう心がけている。また、家族会の発足を今後予定している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	新興住宅地ではなく、古くからの住民同士のつきあいが残る地域である。隣家は現在の自治会長宅であり、ホームに対して理解、協力を得やすく、今後は自治会加入を検討予定している。近隣の方とは散歩の途中に挨拶を交わしたり、ホームの駐車場を時に住民の方へお貸しすることもある。利用している地域の商店とは気軽に日々交流しており、地域とのつきあいは良好である。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者、家族にも理解していただきやすい理念であり、運営者が変わった今も開設時から今まで「めくもりのある」支援に努めている。今春までに新しいパンフレット作成を予定しており、理念を明示するようにしている。今後は新しい体制が落ち着いたところで、更なる支援目標を掲げることも検討していきたいとしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所入り口などホーム内の申し送り時に見やすい場所に理念の文言を掲げ、確認している。「めくもり」のある支援は温かなやさしい言葉からと、言葉かけに特に留意している。認知症への理解をもって支援にあたるには、言葉ではじまり言葉で終わるとして理念を反映した取り組みに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	新興住宅地ではなく、古くからの住民同士のつきあいが残る地域である。隣家が現在の自治会長宅であり、ホームに対して理解協力を得やすく、今後は自治会加入を検討している。近隣の方とは散歩の途中で挨拶を交わしたり、ホームの駐車場を時にお貸しすることもある。利用している地域の商店とは気軽に日々交流しており、地域との関係は良好である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月1回の会議で評価について説明をおこない、自己評価は項目を職員全員に振り分けて取り組んだ。わからない点はホーム長に尋ねながら各自記述したものをとりまとめた。その結果、今まで気づかなかった各職員の視点がわかり新たな気づきができ、外部評価と共に今後の支援に活かしてサービスの向上を図っていく方向である。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年4月を最後に開催されていなかった。平成20年5月に運営が当法人となり今までは引き継ぎや新規体制を整えながら支援に精一杯であったが、第1回会議を4月開催としてその準備を進めている。参加メンバーとして家族代表(交代で)、自治会長、民生委員、行政代表、近隣住民にも協力を依頼することとしている。		

グループホーム めくもりの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	平成20年5月に事業所を引き継ぐにあたって、わからない点を尋ねたり相談したりと、市職員が協力的に対応してくれた。今後も連携をとって事業所の運営、サービスに活かしたいとしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会は月に1度は必ずあるので、その折に近況報告をしており、変化があれば随時電話などでお伝えしている。身寄りのない方もキーパーソンとなられる方と連絡をとり報告をしている。広報誌を発行に向けて準備中であり3ヶ月に1回の発行を予定している。預かり金を家族が希望されれば保険証と一緒に金庫で保管し、利用された際には出納帳で家族に確認していただいている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には近況報告と並んで、家族からのお尋ね、意見をどんな小さなことでも必ずうかがうよう心がけている。まずは経営者が変わったことで家族の不安がないように家族あてに挨拶文を郵送し、対話の時間をゆとり取るよう配慮している。今後は家族会の発足を予定している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	経営者が変わっても開設時からの職員もおり、入居者に影響を及ぼすことなく支援に努めてきた。現在は人的配置が十分といえず、ホームに合った新規職員を求人中である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規体制のもと、人的配置も厳しく日々の支援で手一杯という状況もあり、外部研修の情報提供は随時伝えているが参加はあまり出来ていないのが現状である。しかし内部研修は毎月2回、ヒヤリハットなどの事例を通して学び合い、研鑽を積んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現法人経営となって新しいスタートをきってまだ1年経たない為、同業者との交流には具体的に至っていないが、今後近隣のホームとの交流を含め市内の連絡協議会などネットワーク参加を積極的に考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居に際しては、家族、本人に見学していただき、病院から入居の場合は本人と面談するなど納得された入居に配慮している。昨年は2名体験入居を受け入れており、帰宅願望の強い方へはサインを見逃さないよう、見守り、声かけをもって支援に努め、徐々に馴染んでいただくようにした。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>言葉はなくても職員の感情が以心伝心で入居者が伝わることにしばしば気づき、技術だけでなく精神的なことが支援にいかんにか大切に改めて入居者に教えていただくことがある。入居者が「よくお世話してくれるから」覚えた職員の名前を呼んでくださったり、やむを得ない事情で退職が決まった職員が入院中の入居者に挨拶に見舞うなど感謝しあう関係が築かれている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントは入居時にとっており、本人の希望すること、家族との情報交換により現状を理解し意向に沿えるようにしている。新しい入居者からセンター方式を導入しており、課題をメインに考え、介護計画に反映するようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>「入居者にとってなにかが1番大切なのか」を本人、家族から聞き取り話し合うようにしている。プランの原案を作成、家族へ提示して意見、要望をいただき最終的に決定している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しは定期的(3ヶ月)、或いは変化に応じて随時おこなっている。申し送りノートなどに気づきが多くあげられ、職員が見て情報共有しやすい記録、また家族が見られてもわかりやすい記録のあり方に心がけている。</p>		

グループホーム めくもりの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の外泊支援、また希望があれば家族の宿泊に柔軟に対応し、支援できるとしている。また介護度の高い方も買い物に出かけるなど、入居者に張り合いのある生活の支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医への継続した受診を支援しているが、通院支援は基本的に家族の支援、協力をお願いしている。緊急時に関しては家族へ連絡しホームで対応して支援している。提携医による往診が月に1回あり、体調管理がなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化が予測される場合や主治医が気になる状態の方がおられる場合は、個々に主治医に相談、確認して家族へ報告する形で、ホーム、家族、医療機関の三者で連携し、方針を共有するようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関しては同意書をいただいている。言葉かけや対応には敬意を持って穏やかに配慮しているが、入居者の安全を守る為に、見極めて行動を制限しないといけない場合もあり、そのことは家族へ包み隠さず報告して理解いただくようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活スタイルがあらわれることを尊重し、出来るだけ本人のペースで生活していただくよう支援している。レクリエーションは自由に参加いただくようにしており、家族の希望もあって日々の暮らしの中でリハビリ(歩行訓練、嚥下を促す発声訓練)も取り入れている方もいる。		

グループホーム めくもりの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は常に入居者の嗜好や献立のリクエストをその時々でたずねながら把握し、楽しく美味しく食事をいただけるよう支援している。入居者が好まれるので食後はコーヒーや紅茶を楽しんでいただいている。スペースの問題があり、夕食は夜勤者1名が加わっているが、昼食時は職員全員が入居者と同じ食事を共に食卓で摂ることが出来ていない。		スペースが手狭であり職員が共に着席することが出来ないという点は、家具の配置などで工夫でき、実際にスペース確保の為にソファの大きさ、配置を検討中とのことである。現在、食事介助が殆ど必要なく見守りで大丈夫という状態であり、ぜひこの機会に共に食事をとることで生まれるコミュニケーションや新たな気づきが得られることを考慮して取り組まれることに期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月曜日から土曜日まで毎日、また人的配置が可能であれば入浴の時間にも対応できるようにしたいと、柔軟な支援に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや食事の下拵えなどを手伝っていただき、料理の仕方を職員がたずねたり料理の味見、献立作りなど、家事に多く関わっていただくようにしている。また庭の草取り、花や葱を植えて世話をされている。日中は殆ど居間で過ごされている方が多く、テレビを見たり、花札、カルタ、懐メロを見るなどされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの商店に、献立食材の買出しに可能な方は職員と連れ立って出かけている。一人で出かける方もいらっしゃるが見守りをもって支援している。現在、受診も含めて外出は家族の支援協力でなされておりホームでの取り組みはまだ軌道に乗っていない部分もあって困難だが、少しずつ取り組んでいきたいと検討している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関などは施錠していない。しかし入居者が見守りの無いまま外出された件を受けて、ホーム前の道路も交通量が多いことから、外に面した出入り可能な廊下のサッシに二重ロックを取り付けた。ただし、災害時も配慮して入居者が不穩になられた時や見守りの職員が足りないときにのみ二重ロックを使用するよう職員間で申し送りしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	新規体制になって間もない為、現在災害対策については順次取り組みがなされ整えつつある。調査当日も職員が防火管理者の研修へ出向いており、近日中に避難訓練も計画している。経営関連施設の防災マニュアルも用意されている。職員は常に(特に夜勤時)避難についてイメージすることを忘れないよう促し、災害発生時は、まず大声で近隣に協力を呼びかけることを第一と伝えている。		火災以外の自然災害、特に地震への対応に関して、地域との連携による情報収集(ハザードマップなど)に努め備えられることが望まれる。また、飲料水など身近で準備可能な備蓄や備品の用意、入居者の記録、情報などの重要持ち出し品の確認に取り組んでいかれることに期待したい。

グループホーム めくもりの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、栄養バランスに配慮しながら職員でたてている。疾患がある入居者についてはかかりつけ医に相談し、嚥下に問題があられる方には、キザミなどで対応し誤嚥防止に努めている。水分量に関しては時間帯を決めて摂取していただくようにし、摂取量を把握するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古い一般木造住宅なので、食堂兼居間は制限されたスペースの中で家具の配置を工夫し、少しでも居心地のよい空間となるよう苦心している。肩寄せ合うような空間だけに家庭的な温かさが感じられた。浴室のスペースやトイレの数など不自由な点を克服するには困難な部分もあるが、今後改良、改善へ向けて計画していきたいとされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存の古い木造住宅を改造している為スペースや採光に違いがあったりするが、入居者の状態で1階、2階の居室で過ごしやすいよう出来る限りの配慮がされている。作り付けのダンスや押入れがある部屋は収納に利用されたり、持ち込みの家具、仏壇などで本人が落ち着ける部屋作りをされている。		